

117 ○微微…幽静なさま。
精神不滅、人可成佛、心作萬有、諸法皆空、宿縁綿邈、億劫乃報乎」の用例を引く。

張衡「南都賦」に「清廟肅以微微」〔注〕善曰、微微幽静貌」。李頎「宿瑩公禪房聞楚詩」に「花宮仙梵遠微微、月隱高城鐘漏稀」の句が見える。

『菅家文章』『菅家後集』にも次のような用例がある。

『菅家後集』「506 晚望東山遠寺」に「微微寄送鐘風響、略略分張塔露盤」の句が、また『菅家文章』

「454 早春侍朱雀院同賦春雨洗花、應太皇製」に「増色増香別有心、微微雨脚過春林」の句が、また

「275 冬夜対月憶友人」に「山疑小雪微微積、水誤新水漸々生」の句が見える。

○抛 ……投げ捨てる。

○愛樂……かわいがって楽しむ。

『詩経』「小雅、鹿鳴」に「呦呦鹿鳴、（疏）愛樂其賓客」、『史記』「李將軍傳」に「寛緩不苛、士以此愛樂爲用」の例が見える。

『漢語大詞典』では「愛悦、喜愛」と説明し、祖台之『志怪録』の「廟神愛樂君馬、故取之耳」の例を引く。

118 ○漸漸……徐々にすすむさま。次第次第に。ようやく。漸次。

『晋書』「王如傳」の「于是舞刀為戲、漸漸來前」の用例がある。

『漢語大詞典』では「逐漸」と説明し、荀悦『漢紀』「武帝紀四」の「廣偽死、漸漸騰而上馬、抱胡兒而鞭馬南馳」の用例、張籍「早春病中詩」の「更憐晴日色、漸漸暖貧居」の例を引く。